

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校

1. 支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校

2 中期的目標

1 支援教育における専門性及び指導技術の向上

- (1) 小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善する。
- (2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化を推進する。
- (3) ICT 機器の活用をさらに高め、新しい授業スタイルを構築する。
- (4) 経験年数の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。

2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現

- (1) 卒業後の自立と社会参加に向けて、小・中・高3学部で一貫したキャリア教育を推進する。
- (2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援する
(フロンティアコースの卒業生徒数と同数の就労を目標とする。H29 就労数6人/コース生徒数6人、H30 5人/5人、R1 4人/6人)
- (3) 保護者に発信する進路情報を充実し、進路選択に向けた支援を強化する。
- (4) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進する。

3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り

- (1) 個々の教職員が常に生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、情報共有しながら連携していく体制を構築する。
- (2) 会議や業務を効率化し、教員が生徒に直接的に関わる時間を増やす。
- (3) 生徒が毎日笑顔で通学し、教職員が心身ともに健康で職務を遂行できるよう、快適な学習環境・職場環境を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (): H30、R1 年度高等部結果	自己評価 【保】保護者向け学校教育自己診断 【生】生徒向け学校教育自己診断 【教】教員向け学校教育自己診断
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	(1) 小・中・高3学部を見通した教育課程となるよう改善	① 全校教育課程検討会と連携し、3 学部 12 年間を見通したシラバスを整備する。 ② 生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた学習内容・指導・支援の方針の明確化して共有化する。	① 高等部の新しいシラバスを作成する。 ② 【保】「個別の教育支援計画」(83%→93%) ⇒ 維持する 【生】「授業は理解しやすい」(69%→79%) ⇒ 80%	
	(2) 授業の質の向上と平準化のため、教材・教具の充実と共有化を推進	① 前年度に教材バンク PT から提案のあった内容を実行し、教材が活用しやすい環境を整備する。	① 教材バンクを利用した教材作成の実践例報告会を開催する。	

府立八尾支援学校（高等部）

	(3) ICT 機器の活用による新しい授業スタイルの構築	① ICT 活用をテーマにした研究授業を行う。 ② 他校事例を研究し、校内で活用する。	① 年間 2 回実施する。 【教】「ICT 活用」 (84%→70%) ⇒ 85% ② ICT 関連の研究会や他校の公開授業を合わせて 5 回以上見学し、報告会を随時開催する。実践例報告会を開催する。	
	(4) 経験年数の少ない教員の専門性や指導技術を向上。	① 効果的な研修（校内・外部）を計画し、実施する。 ② メンターによる指導を充実する。	① 【教】「計画的校内研修」 (93%→93%) ⇒ 維持する 【教】「専門性を高める」 (93%→86%) ⇒ 90% ② 年 3 回以上、定期的に報告会を開催する。	
2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの 充実による自立や社会参加の実現	(1) 小・中・高 3 学部で一貫したキャリア教育を推進	① フロンティアコースの授業内容を充実する。 ② 職業および生活実践のカリキュラムの見直しをする。 ③ 生徒の自己理解やマナー習得に結びつく学習を実施する。 ④ 小・中・高 3 学部の連携によるキャリアサポートプログラムを企画し、実施する。 ⑤ 高等部の生徒が中心となって、小・中学部の児童・生徒に「働くこと」のイメージを持てるような取組みをする。	① フロンティア生について、「キャリア能力に関する評価測定のための指標」が、1 人 2 項目以上が前年度よりランクアップする。 ② 検討結果を報告書にまとめ、令和 3 年度からの実施に向けた準備が完了する。 ③ 【教】「キャリア教育」 (93%→95%) ⇒ 維持する 【保】「キャリア教育」 (82%→90%) ⇒ 維持する ④ 前年度からステップアップして、中学部と連携した具体的なプログラムを実施する。 ⑤ 八尾アスレチックフィールドのメンテナンスを年間 5 回以上、小・中学部の清掃活動を年間 5 回以上実施する。中学部生徒を対象に企業実習体験の報告会を新たに実施する。	
	(2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援	① 進路指導に関する知識向上と指導力強化のため、研修やワークショップを開催する。 ② マッチング機会を充実するため、実習先を新規開拓する。 ③ 進路先の選択肢を増やすため、企業、障がい者就業・支援センターや福祉関連施設との連携を強化する。	① 教員に対する進路指導研修を 3 回以上、施設・企業見学会を 5 回以上開催する。 【教】「進路指導研修」 (91%→93%) ⇒ 維持する ② 高等部全教員および小・中進路部教員により実習先を 10 社新規開拓する。 【保】「実習の取組み」 (81%→90%) ⇒ 維持する ③ 企業就労人数 7 人 (R1 は 4 人) 3 年生全員の進路が決定する。	
	(3) 保護者に発信する進路情報の充実し、進路選択に向けた支援を強化	① 保護者向け研修会と施設見学会を実施する。 ② 「進路だより」「進路通信」を発行して、きめ細かく情報を発信する。	① 施設・作業所合同説明会を開催する。また保護者向け研修会・見学会を 10 か所で開催する。 ② 「進路だより」「進路通信」を合計年 20 回発行する。 【保】「進路に関する情報」 (87%→94%) ⇒ 維持する	
	(4) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進	① 校外ボランティア活動を企画し、実施する ② 高等部全体で課外クラブを運営していく体制を構築し、クラブ活動を活性化する。 ③ 基礎体力向上の取組みを確実に実行する。	① フロンティア生による駅の清掃など具体的な活動を各学年年間 2 回実施する。 ② 次の項目を見直して参加しやすいよう環境を作り、部員が増加する (R1 部員数 12 人)。 ・内規 ・活動内容 ・運営体制 ③ 朝のランニングの周回数やスクワットの回数など、高等部全員が個人別に適切な目標を設定して、実行する。	

府立八尾支援学校（高等部）

3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り	(1)生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、教職員が情報共有しながら連携していく体制を構築	① 指導チェックリストを活用しながら、適切な生徒指導と組織的な対応をする。 ② SNSに関する生徒指導についての教員向け研修を実施する。 ③ 各種防災訓練を実施し、課題を整理して対応を完了する。 ④ 防災関連マニュアルを見直し、必要に応じて更新・改訂する。	① 【教】「生徒指導の組織的対応」 (88%→93%)⇒維持する ② 外部講師による教員向け研修を1回以上実施する。 ③ 実施回数：8回 新たに職員実働防災訓練を実施する。 【教】「防災教育・安全教育」 (100%→95%)⇒維持する ④ 職員実働防災訓練をはじめ、実施した訓練で生じた課題をもとに、関連マニュアル見直しをR2.12月末までに完了する。	
	(2)教員が生徒に直接的に関わる時間の増加	① 高等部内の業務分担の見直しをし、業務を標準化する。 ② 業務効率化のアイデアや、業務改善につながる課題提起を募集する。	① 【教】「労働条件改善」 (28%→51%)⇒60% 【教】「分掌、学部、学年連携」 (81%→74%)⇒85% ② 教員から業務効率化のアイデア提案や課題提起が1人1件以上提出される。 この中から、3件以上の業務改善を実施する。	
	(3)快適な学習環境 職場環境の構築	① 点検用紙に修繕完了チェック欄を設け、翌月に確認し、高等部関連施設の安全点検を徹底する。 ② 教職員による定期的な一斉清掃や、生徒の清掃実習により学校の美化を推進する。毎回の重点テーマを設定するなどの周知方法に工夫をして、効果的に実施する。	① 実施回数：月1回 【教】「施設・設備の整備」 (63%→42%)⇒65% 【保】「安全な施設や設備」 (63%→78%)⇒80% ② 職員清掃：月1回 生徒・教員合同の一斉清掃：各学期1回 【教】「校内清掃活動」 (58%→51%)⇒60% 【保】「校内清掃」 (65%→74%)⇒80%	